

水とみどりの景観形成重点地区の景観形成基準に対する措置状況説明書

玉川上水沿い周辺地区 高さ 10m以上又は延べ面積 500 m²以上

当該行為における景観形成に関する考え方

記載欄

(1) 配置

①玉川上水沿いの自然環境に対して、通風、日照、開放性に配慮したオープンスペース等を確保し、玉川上水のみどりを周辺のまちから見通すことができるよう視界を確保した配置とする。

記載欄

②壁面の位置の連続性や適切な隣棟間隔の確保など、周辺のまちなみに配慮した配置とする。

記載欄

③玉川上水にも建築物の顔を向けた配置とする。

記載欄

④地域の景観資源となる樹木等がある場合は、これらを活かした建物の配置とする。

記載欄

(2) 規模

①高さは、周辺建築物群のスカイラインとの調和を図り、著しく突出した高さの建築物は避ける。特に玉川上水や上水に面する歩道及び道路の樹木と隣接する敷地では、玉川上水に面する建築物の高さが、玉川上水や上水沿いの樹木の最高高さを超えないよう工夫する。

記載欄

②玉川上水沿いの散策路や橋梁などの周辺の主要な眺望点（道路・河川・公園など）からの見え方に配慮した規模とする。

記載欄

(3) 形態・意匠・色彩

①形態・意匠は、建築物自体のバランスだけでなく、玉川上水の自然環境や周辺建築物と調和を図る。

記載欄

②玉川上水の樹林への日照や通風など、自然環境に配慮した形態とする。

記載欄

③外壁は玉川上水に面する壁面を分節化するなど、長大な壁面を避け、圧迫感の軽減を図る。

記載欄

④色彩は、まちなみに調和したものとし、表-1（杉並区景観計画 P94 参照）に定める基準に適合したものとす。
記載欄
⑤看板や広告は、目立つことだけを目的とせず、周辺環境に配慮して節度ある色彩やデザインとする。
記載欄
⑥屋上に設備等がある場合は、建物と一体となったデザインとするなど周囲からの見え方に配慮する。
記載欄
（４）公開空地・外構・緑化等
①玉川上水沿いのオープンスペースは、出来るだけ隣接するオープンスペースと連続性をもたせる。
記載欄
②敷地内はできる限り緑化を図り、玉川上水のみどりと一体となった厚みと広がりのある空間とする。また、屋上や壁面の緑化を積極的に検討する。
記載欄
③緑化にあたっては、武蔵野のみどりに適した樹種を選定するとともに、植物の良好な生育が可能となるよう、植栽地盤を工夫する。
記載欄
④門や塀は、周辺環境や建物本体に調和した形態・素材・色彩を使用する。
記載欄
⑤外構計画は、敷地内のデザインのみを捉えるのではなく、隣接する敷地や道路など、周辺のまちなみと調和を図った形態・色調・素材とする。
記載欄
⑥擁壁は、植栽可能な法面としたり、石積みや緑化ブロックなどの自然的材料の使用やコンクリート面に化粧目地を施すことにより、壁面に柔らか味を出すように工夫する。
記載欄
⑦閑静なまちなみでは、過度な屋外照明は使用しない。
記載欄
上記以外で特に景観に配慮した事項
記載欄